

背景及び現状

高知県とイタドリ

- 高知県の年間出荷量は約30トン（日本一）である。
- イタドリが一般的に家庭で食されるという高知県特有の食文化がある。
- 主に「天然」採取であることから、専ら県内で消費されており外商活動は活発的でない。



取り組みの経緯

- 高知県食品工業団地事業協同組合は鏡地域のイタドリの品質の高さに着目し、今後県の特産品としての有望素材と捉え、原料確保や商品開発に取り組む方針としている。
- 高知市鏡地域ではイタドリの「栽培」実績があることに加え、加工品（しゃくしゃく漬け）の販売も行ってきており、栽培・加工に関して一定のノウハウを有する。
- 以上のことから、高い「外商」実績を持つ食品工業団地と鏡地域の生産者が連携し、イタドリの加工品を共同開発し、生産者の顔が見える「安全安心」な加工食品として外商して行くこととした。

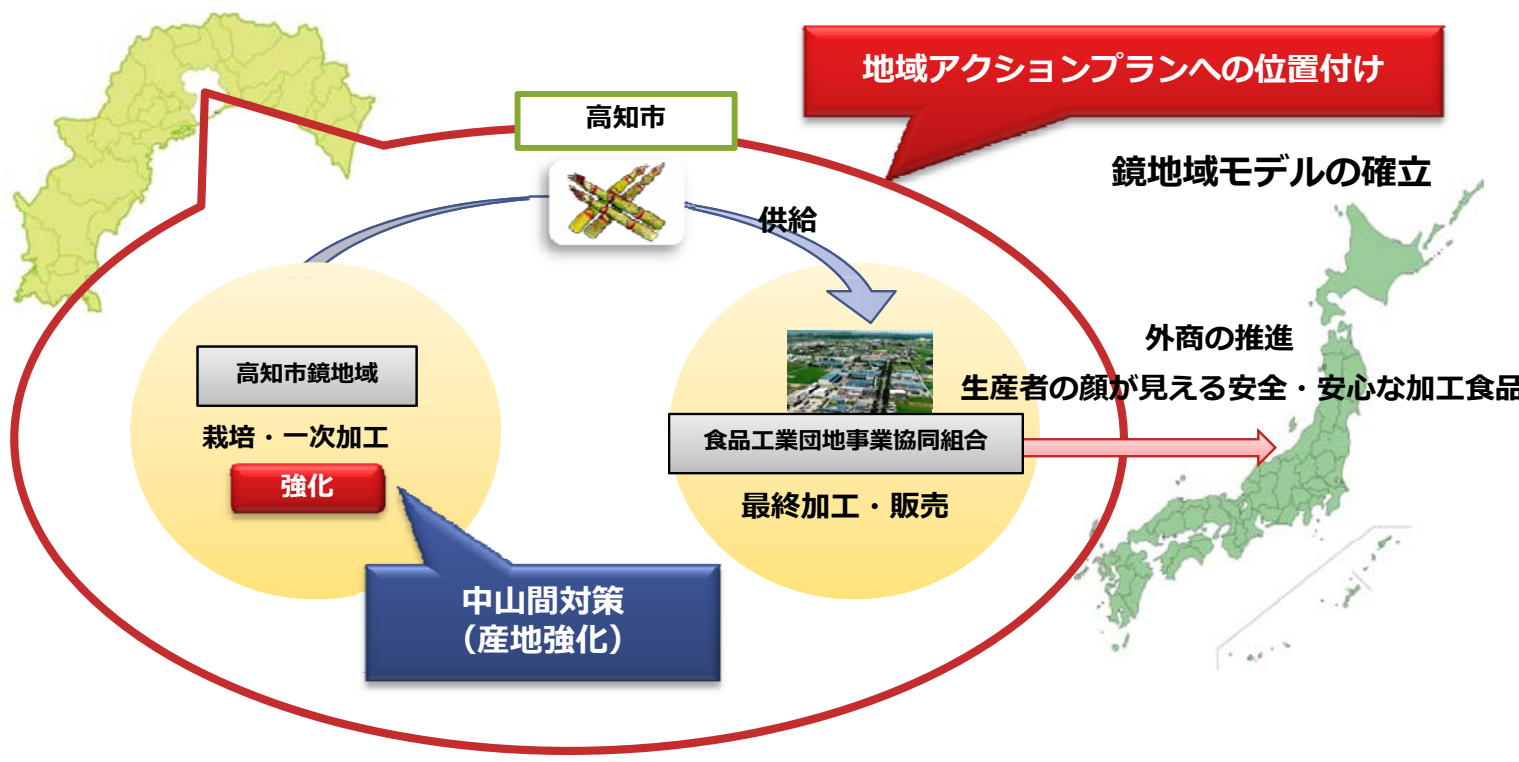
現在の取組状況

- 高知県食品工業団地において、鏡地域から仕入れた延べ130kgの原料を用いて試作。
- 試作品を2～3月に幕張メッセで開催される「スーパーマーケットトレードショー2017」及び「フーデックスジャパン2017」に出展し、さらに4月に東京ビックサイトで開催される「ファベックス2017」（高知市ブース）に出展予定。

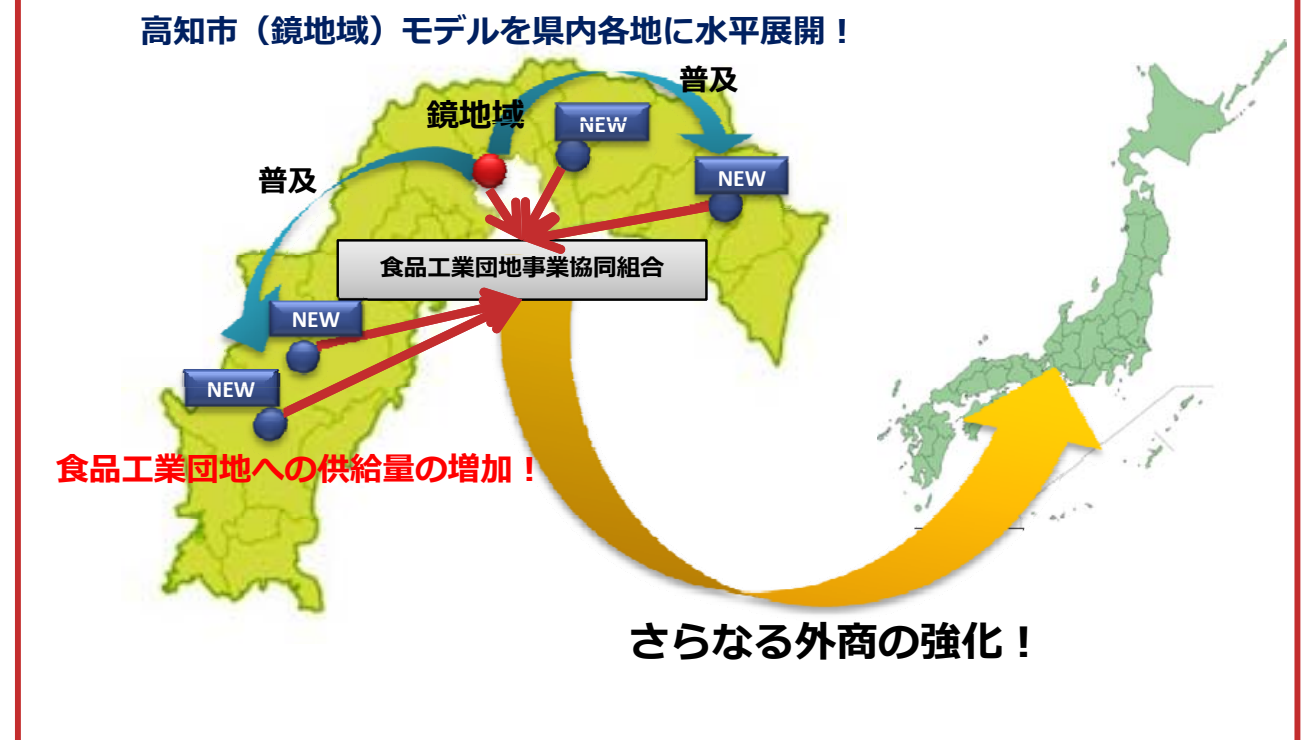
当面の課題

- ①新たな圃場の確保
- ②マンパワーの確保（鏡地域において来年度5名雇用予定）
- ③供給力を拡大するための環境整備（加工場）
- ④販促活動

当面の目指すべき姿（高知市鏡地域）と食品工業団地の連携によるイタドリ生産拡大・販路の開拓



次に目指すべき姿（高知市（鏡地域）を核とした高知県産イタドリ産業の強化）



		H29年2,3月	H29年度	H30年度以降	
スケジュール	市	有望品目の植栽に向けた耕作放棄地の解消支援、次年度事業実施に向けた予算の確保	ファベックス出展、新たな圃場の整備支援、機械化の検討、マンパワーの確保支援	高知市(鏡地域)モデルの確立 → 全市・全県的な取り組みへの波及	
		地域A Pへの位置付け(2月FU会議→3月FU委)	包括協定に基づく食品工業団地への支援(販促活動の委託)		
	県	・SMTS(2月) ・フーデックスジャパン2017(3月)	供給力を拡大するための地区を巻き込んだ環境整備の支援策検討		必要となる予算措置
		・プロジェクトチーム会議(3月)	食品工業団地を中心に設置される関係者による推進組織(協議会)への参画		必要となる予算措置
		地域A Pへの位置付け(2月FU会議→3月FU委)	マンパワーの確保支援(鏡地域全域からの参画を図る)		
			供給力を拡大するための地区を巻き込んだ環境整備の支援策検討		